

左上の折れ線グラフは、過去の競技種目別受入者延べ人数を表したものです。町では、水泳やバスケット、テニスといった様々な競技種目の合宿受け入れを行っています。今回は、平成5年度から18年度までの延べ人数が、1万人を超えた4種目について、傾向を探ってみました。

グラフを見ると、スポーツコンベンション推進協議会が設立された平成5年度から、受入者数が激増し、コンベンション事業の成果が現れたことがわかります。しかし、平成7年度を境に年度によって受入の増減変動が見られます。過去の実績を見ても、施設面では、最大ピーク時までの合宿誘致は可能なことがわかります。今後も最大受入者数が直線に推移することが望ましいことは言うまでもなく、毎年安定した合宿誘致の推進が必要となります。

左下の棒グラフは、これまでの競技種目全ての宿泊者延べ人数を年度別に表したものです。上の折れ線グラフの増減が宿泊者数の増減に影響しています。宿泊先は、コンベンション推進協議会に加入している温泉旅館組合です。温泉旅館組合は、競技団体関係者と一体となった誘致策が今後も望まれるところです。

コンベンションのメリットを生かしたい



さつま町商工会弁当部会
二階堂 ツル子 さん

弁当部会では、合宿や各種イベントでの弁当注文を受け入れています。現在、コンベンションさつま推進協議会に加入している弁当部会は宮之城地区の9店舗です。コンベンションにより、年間を通じて多くの注文があり、売り上げに関しても大きなメリットがあります。しかしながら、多くの注文があるにもかかわらず、町内9店舗の部会では、受注体制がうまくいかず、町外の弁当屋に注文が流れ出ることもあり、悔しく思います。多くの注文があった場合、きちんと対応できる体制を急いで作る必要があります。薩摩地区や鶴田地区の弁当販売店にもコンベンションさつま推進協議会に加入して頂くようお願いしているところです。弁当部会の地区層が広がることで、多くの注文に対応できると考えています。

また、弁当部会では、弁当メニューや弁当箱の工夫などをもっと研究して、魅力ある弁当づくりに取り組む必要があり、自信をもって積極的にPRできる弁当部会を目指したいと思います。

企業側としても地域との交流が必要です

I G R京セラでは、プロサッカーチームや学生のスポーツキャンプを中心に受け入れを行っています。中でも恒例となった「Jリーグの春季キャンプ」は地元の子どもたちとの交流を目的としたサッカー教室などを開催しています。また、厳選された旬の食材を使った食事を提供するなどして、地域のPR活動にも力を入れております。

企業側として、地域との交流やさつま町の活性化にお役に立てることが、この施設が存在する意味を持っていると強く思います。

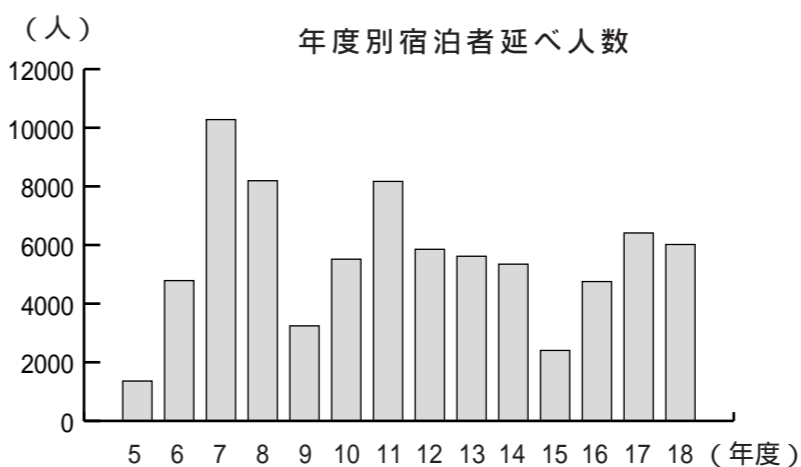
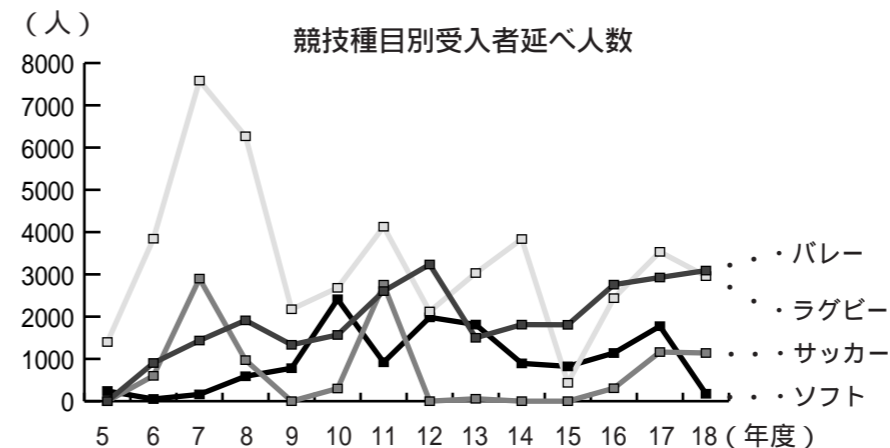


インターナショナルゴルフリゾート京セラ
第二営業部 営業係 係長補佐
神原 直樹 さん

薩摩地区では、これまで、プロスポーツキャンプの受け入れを中心に取り組んできました。主な受け入れ先は、テニスコートやグラウンドといった施設を合わせ持つ町内立地企業のインターナショナルゴルフリゾート京セラです。

町内に各種施設を備え持つ企業があることは、地域にとっても恵まれています。コンベンション推進協議会への加入はないものの、町内立地企業による各種スポーツイベントの開催やプロスポーツの受け入れなどは、地域の交流人口に大きく貢献しています。

グラフからわかるように、今後より一層、地域と連携した推進体制が望まれます。



合宿生は、大切なお客様です

旅館として、コンベンション合宿は、非常に有り難く感じています。特に夏場は宿泊客が少ないため、夏合宿の受け入れはメリットを感じます。

年間を通してみると、これまでは、一般観光客とビジネス客が多いでしたが、今では、一般観光客とビジネス客、スポーツ合宿受入団体の割合がほぼ同じになっています。

旅館組合は、合宿生も大切なお客様として受け入れています。有り難いことに、一般客とは異なり、自分たちで布団を出し入れしたり、配膳をしたりしますので、人的労力が少なくすみます。一番気をつけていることは、食事の面です。量や栄養バランスなどを考えています。旅館の間でも、片寄りがないようにしています。

芝グラウンドができたことも有り難いことでした。昔は、選手たちが泥にまみれた汗を流すため、浴槽も大変な状況でした。また、ケガ人も多く、病院へ運んだこともよくありましたが、今では、ケガ人もほとんど出ません。芝グラウンドになったことは本当に良かったと思います。

旅館は、夏合宿以外にも受け入れる能力は十分にあります。これからは、温泉宿の良さを出しながら、高齢者スポーツ団体や文化団体などにもターゲットを広げて、年間を通じて各種団体が利用してくれるよう、旅館組合としても自ら働きかけていく必要があります。



宮之城温泉旅館組合長
久保田 仁 さん

